

他力

「住職便り」



第九号（平成二十四年五月）
専徳寺住職 弘中満雄

最近ご門徒の皆さまからこんなお言葉をお聞きしました。住職としてとてもありがたくお聞きしました。

◎「生きていると思っただけでしたが、最近生かされていると感じるようになりました」

法事の後でした。お斎開始にあたりご当主の挨拶があり、まず参集の方へのお礼、そして趣味（風景写真）で遠出する話の後、この言葉で締めくくられました。

体力が衰えたという話ではありません。亡き母を思い、自然の美しさを思うにつれて、多くのご縁に支えられている事を素直に喜べるようになった……そんな気持ちの変化をおっしゃったのです。

「先祖のおかげで命がある。社会のおかげで暮らしがあがる。念仏のおかげで喜びがある」。お念仏という仏縁に支えられている事も大切にされる方です。

◎「『朝には紅顔ありて』というが、父はその事を身をもって教えてくれました」

枕経の時間におっしゃった言葉です。

「朝には紅顔ありて夕べには白骨となれる身なり」（白骨の御文章）。朝には元気でも、無常の風吹けば夕刻、いや次の瞬間には亡骸となる私かもしれないのがこの世界。けれどもその事に向き合っていける教えがお念仏。

「空しく終わらせない」という仏の音声です。

「無常の風音の中に念仏の音声を聞く」。

二つの道理を教えてくださったのが故人。それをはつきり聞き受けとめられた方です。

お仕事をされている方

夜座お待ちしています

15月14日（月）夜7時半～9時

新年度が始まりお忙しい事でしょうがどうぞ夜座にお参りください。

お聴聞はストレスの多い壮年期にこそ必要です。遅刻されても結構です。お参りお待ちしております。

【言葉】月影のいたらぬ

里はなけれども

ながむる人の

心にぞすむ

